

## 実践報告

### 表現系ゼミの協働によるオペレッタの実践報告

#### A Report on an Operetta Created Through Collaboration between Expression Seminars

古木竜太	国際学院埼玉短期大学幼児保育学科
越智光輝	国際学院埼玉短期大学幼児保育学科
大野琴絵	国際学院埼玉短期大学教育研究所

本学幼児保育学科の卒業研究ゼミでは、令和6年度より新たな試みとして、「音楽表現ゼミ」、「造形デザインゼミ」、「身体表現ゼミ」の3ゼミが協働してオペレッタ「不思議の国のアリス」の上演を実践した。学生は、さいたま市内のA保育園、五峯祭の本番舞台を経験し、練習から本番までの過程を卒業研究の個人論文としてまとめた。初演となるA保育園では、学生は練習してきた成果を十分に発揮していたが、さらに子どもたちの興味を惹くような演出が必要であると感じた。2回目の本番となる五峯祭では、初演の経験を踏まえ、観覧者である子どもが劇中に参加できる演出を増やした。学生は選択した専門分野において表現技術に関する学びを深め、音楽、造形、演技が一体となった総合的な表現を実践的に学ぶことができた。今後は本事例の経験を踏まえ、さらに学生が主体的に活動して創意工夫を凝らし、学生にとって満足度が高いゼミを目指したい。

キーワード: 幼児教育、表現、オペレッタ、実践報告

#### 1. はじめに

国際学院埼玉短期大学（以下、本学）では、卒業研究論文の内容や研究テーマに関する検討が行われ、令和6年度よりパフォーマンスなどの実践も卒業研究の成果物にするものとした。これを踏まえ、本学幼児保育学科の「音楽表現ゼミ」「造形デザインゼミ」「身体表現ゼミ」の3ゼミは、オペレッタの作品上演を学習到達目標に設定し、ゼミ活動に取り組んだ。

これまで「オペレッタ」は、音楽演奏、舞台背景や装置、衣装の製作、演じるという表現を総合的に学ぶものであり、幼児保育学科の専門選択科目として1年次に開講している。履修した学生は演じる作品選びから始まり、配役の決定、歌唱・演奏練習、衣装や舞台装置の製作、演技練習に取り組み、本学大学祭（以下、五峯祭）において上演してきた。五峯祭では、オペレッタを楽しむに多くの地域の子どもたちが来場する。学生にとって本番の舞台は緊張感や高揚感があり、この感覚は本番を経験した学生にしか味わえない感覚であろう。このようにオペレッタは学修成果が期待できる科目である一方で、履修者が少ないという課題があった。

履修者が少ない場合、学生一人が担当する役割が増えてしまう。例えば、令和5年度のオペレッタは履修者が6名で「シンデレラ」に取り組んだ。歌唱練習、衣装や舞台装置（背景や大道具など）の製作、演者としての舞台稽古を経て、五峯祭での本番に臨んだ。舞台装置の作製に時間を要し、幕間の舞台転換など、場面ごとに裏方としての役割も決めた。実際の本番では、一人二

役・三役を掛け持ちしなければならない現状であった。

そこで、令和6年度より、学修成果の集大成として、オペレッタによる表現をゼミナールで実践的に学ぶことにした。具体的には、音楽表現ゼミ、造形デザインゼミ、身体表現ゼミの3ゼミが協働する。また、この3ゼミを希望した1年生も2年生と共に活動し、オペレッタを通じて、学年の枠を越えた交流を深める。以上が音楽表現ゼミ、造形デザインゼミ、身体表現ゼミが協働してオペレッタに取り組むに至る背景である。

なお、筆者らでどのような作品に取り組むか検討した結果、「不思議の国のアリス」に決定した。同作品を選んだ理由は、著作権の問題がないこと、学生や子どもにとって馴染みのある作品だからである。また、本論文に掲載している画像は、上記3ゼミの学生がメンバーになっているTEAMS（Microsoft社製）において本稿の主旨を説明し、掲載の許可を得ている。

## 2. 実践報告

### 2-1. 令和6年度表現系ゼミの活動

#### (1) 2年生前期の活動

第1回は、本学初の試みとなる表現系ゼミが協働して取り組むオペレッタの主旨や学修成果の到達目標を確認した。表現系ゼミの授業の到達目標は、「①本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演技方や歌い方を修得し、実践できる。」、「②子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。」、「③担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。」である（2024. シラバス）。

まず始めに、「不思議の国のアリス」（ウォルト・ディズニー・スタジオホーム・エンターテイメント）のDVDを鑑賞し、作品の内容や登場するキャラクターの理解を深めた。

第2回のゼミでは、引き続きDVDを鑑賞した。その後、「不思議の国のアリス」の台本（（株）ドレミ楽譜出版社. 第8刷. 2022年）にある劇中の10曲の歌唱練習を行った。

第3回のゼミでは、担当係を決めた。2年生はアリス、時計うさぎ、ハートの女王、トランプ兵、ぼうしや、3月うさぎ、ねむりねずみを担当することになった。その他、演奏担当は5名、造形担当は3名で活動することになった。

第4回から第13回のゼミでは、それぞれが担当する係の活動に取り組んだ。演奏担当は使用曲の練習、造形担当は衣装・小道具などの製作、キャストは身体表現の基礎練習や劇中の振付・創作を行った。

そして、第14回、15回は音楽表現ゼミ、造形表現ゼミ、身体表現ゼミが合同で全体練習（通し稽古）の場を設け、作品の全体像を共有した。

#### (2) 1年生前期の活動

第1回から第7回の内容は、幼児保育学科1年生の全ての学生が共通のテーマで卒業研究について学ぶ。第8回より自ら選択したゼミにおいて学修する。

表現系ゼミを希望した1年生（13名）は、「不思議の国のアリス」のDVDを鑑賞し、配役を決めた。そして、第9回から2年生と合流して各担当の活動に取り組んだ。

### (3) 後期の活動（1・2年生共通）

後期は主に本番を想定した合同練習を行った。五峯祭では、本学の講堂を会場として、演者の登場・退場する場所や演奏に合わせた動きのタイミングなどを確認した（図1）。

また、さいたま市内にある系列保育園（以下、A保育園）の協力を得て、園児の前でオペレッタを披露する場も設けた。これはA保育園のホールを会場としたもので、本学の講堂と同様の演出はできない。

そこで、A保育園のホールを想定した合同練習も行った（第3・4回）。そして、第5回のゼミにおいて、A保育園にて「不思議の国のアリス」を上演した。学生にとって本上演が初演であった（詳細は後述する）。

第6・7回のゼミは、五峯祭準備期間中に活動した。担当する係ごとに演奏・製作・演技を仕上げる段階と位置づけ、五峯祭前日の最終リハーサルは本番の同時刻に設定して行った。そして、第8回は五峯祭当日、最終リハーサルを行い本番に備えた。会場には、多くの子どもや保護者、在学生や卒業生が観覧し、本番を迎えることができた。



図1. 合同練習の様子

## 2-2. 各ゼミの活動

各ゼミの活動および合同練習のスケジュールを表1に示した。

表1. 各ゼミの活動スケジュール

月日	音楽表現ゼミ 活動内容	造形デザインゼミ 活動内容	身体表現ゼミ 活動内容
4/8	ゼミの趣旨説明、DVD鑑賞		
4/15	DVD鑑賞、歌唱練習		
4/22	配役・担当係の決定、舞台空間の使い方		
5/11	楽器(ピアノ)練習、リーダー決め、楽器編成	リズムダンスの練習1	
5/13	楽器決め	リズムダンスの練習2	
5/20	各担当の楽器練習	リズムダンスの練習3	
5/27	1年生楽器編成決め	衣装・小物等制作・1年生顔合わせ	幼児を対象としたリズムダンスの指導・援助1
6/3	各担当の楽器練習、合わせ	衣装・小物等制作	幼児を対象としたリズムダンスの指導・援助2
6/10	各担当の楽器合わせ	衣装・小物等制作	クラシックバレエの基礎レッスン・1年生参加
6/17	楽器合わせ(楽曲1～8まで)	衣装・小物等制作	創作ダンスの振付技法
6/24	楽曲6～10まで楽器合わせ、各楽器練習	衣装・小物等制作	リズムダンスの創作
7/1	各楽器練習、楽曲1～6まで楽器合わせ	衣装・小物等制作	上演作品(不思議の国のアリス)の振付・創作
7/8	楽曲6～10まで楽器合わせ	衣装・小物等制作	上演作品(不思議の国のアリス)の振付・創作
7/15	全体練習(オープニング～楽曲7まで)		
7/22	全体練習(オープニング～楽曲8まで)		
9/30	全体練習(オープニング～エンディングまで)		
10/7	楽曲1～10まで楽器合わせ	衣装・小物等制作	フィナーレ・カーテンコールの練習
10/21	全体練習(オープニング～エンディングまで)		
10/28	A保育園での上演		
11/8	個別練習、全体練習、音合わせ	会場装飾、全体練習	個別練習、全体練習
11/9	造形製作サポート		造形製作サポート
11/10	全体練習、五峯祭本番		

## (1) 音楽表現ゼミの活動内容

### 1) 使用楽器

音楽表現ゼミを履修した学生のうち、2年生6名、1年生5名が楽器およびコーラスを担当した。それぞれの楽器の担当人数は、ピアノ担当2名、クラリネット担当1名(図2-1)<sup>1)</sup>、トランペット担当2名(図2-2)<sup>2)</sup>、パーカッション及びコーラスパート担当5名であり、パッカーション(打楽器)として、ビブラフォン(図2-3)<sup>3)</sup>、シロフォン(図2-4)<sup>4)</sup>、グロッケンシュピール(図2-5)<sup>5)</sup>、カスタネット、タンバリン、スライドホイッスル(図2-6)<sup>6)</sup>、スリットドラム(図2-7)<sup>7)</sup>を使用した。



図 2. 主な使用楽器各

## 2) 楽曲ごとの楽器編成

楽曲ごとにおける楽器の編成について、表 2 に示した。

オープニングの楽曲 1「ふしぎワンダーランド①」では、クラリネット、トランペット、ピアノ、ビブラフォン、コーラスを、楽曲 2「時計ウサギを追いかけてのうた」では、クラリネット、トランペット、ピアノ、グロックンシュピール、コーラスを、それぞれ用いた。

第 1 幕の楽曲 3「ようこそふしぎの国へのうた①」および楽曲 4「ようこそふしぎの国へのうた②」では、いずれの曲でもピアノ、グロックンシュピール、コーラスを用いた。

第 2 幕の楽曲 5「お茶会チャ・チャ・チャのうた」では、ピアノ、シロフォン、スライドホイッスル、スリットドラム、コーラス、楽曲 6「トランプの王国のうた」では、クラリネット、トランペット、ピアノ、コーラス、楽曲 7「パイがない!のうた」ピアノ、グロックンシュピール、シロフォン、コーラス、楽曲 8「さいぼんのうた①」では、トランペット、ピアノ、コーラス、楽曲 9「さいぼんのうた②」では、クラリネット、ピアノ、カスタネット、コーラス、を用いた。フィナーレの楽曲 10「ふしぎワンダーランド」では、クラリネット、トランペット、ピアノ、シロフォン、ビブラフォン、タンバリン、コーラスを用いた。

表 2. 楽曲ごとの編成

場面	曲順	タイトル	構成
オープニング	楽曲1	ふしぎワンダーランド①	クラリネット、トランペット ピアノ ビブラフォン コーラス
	楽曲2	時計ウサギを追いかけてのうた	クラリネット、トランペット ピアノ グロッケンシュピール コーラス
第1幕	楽曲3	ようこそふしぎの国へのうた①	ピアノ グロッケンシュピール コーラス
	楽曲4	ようこそふしぎの国へのうた②	ピアノ グロッケンシュピール コーラス
第2幕	楽曲5	お茶会チャ・チャ・チャのうた	ピアノ シロフォン スライドホイッスル、スリットドラム、鈴 コーラス
	楽曲6	トランプ王国のうた	クラリネット、トランペット ピアノ コーラス
	楽曲7	パイがない！のうた	ピアノ グロッケンシュピール、シロフォン コーラス
	楽曲8	さいばんのうた①	トランペット ピアノ コーラス
	楽曲9	さいばんのうた②	クラリネット ピアノ カスタネット コーラス
フィナーレ	楽曲10	ふしぎワンダーランド	クラリネット、トランペット ピアノ シロフォン、ビブラフォン タンバリン コーラス

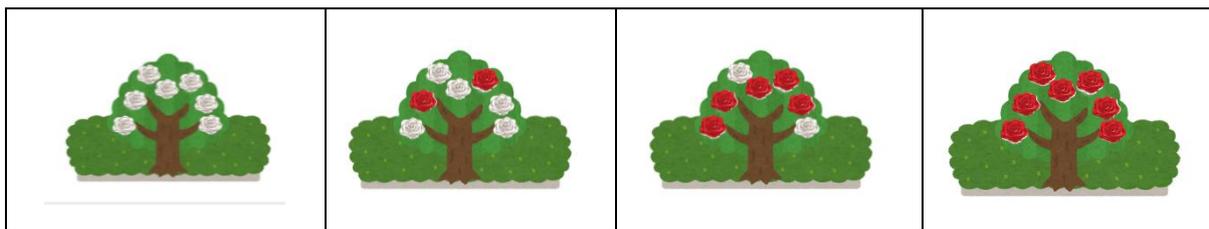
## (2) 造形デザインゼミの活動内容

造形デザインゼミでは、衣装製作、小道具製作、壁面装飾、デジタル背景を担った。1年生は壁面装飾、デジタル背景を、2年生は衣装製作、小道具製作を主に手掛けた。材料はフェルト、針金、段ボール、毛糸、両面テープ、ボンド、針と糸などであり、材料コストも必要最低限に削減できた。学生が製作したものを以下に記す(表3)。

表3. 学生が製作した衣装・装飾・背景

アリス	時計ウサギ	ハートの女王	王様
-----	-------	--------	----

			
いもむし	チシャ猫	スマイリーフラワー	帽子屋
			
眠りネズミ	三月ウサギ	トランプ兵	
			
壁面装飾(一部抜粋)			
			
			
デジタル背景(一部抜粋)			



さらに、初演となったA保育園での舞台を終え、学生が衣装の改良の余地があると判断し、五峯祭本番までに改善を試みた。装飾がなかったチョッキやカチューシャに、リボンやフェルトを加えたことにより、より華やかな印象に仕上げた。以下に改良後の衣装を記す（表4）。

表4.初演後に改善した衣装

帽子屋	眠りネズミ	三月ウサギ
		

本ゼミナールにおいて、指導者としてまず驚いたことが「学生の自主性」である。衣装製作が始まる第1回目の授業では、既に学生達で考えた衣装イメージが固まっており、購入する材料も決まっていた。配分された予算を駆使し、計画的に配分金を使用していた。予算内に収めるべく、小さなフェルトの端切れ等も存分に使用し、材料を無駄にしないよう、工夫する姿が見受けられた。そして、衣装や小道具、壁面装飾についても、サイズ感や材料、接着の仕方や強度等、適宜指導はしていたものの、ほとんど学生たちが自ら考案したデザインのものとなっている。授業内に終わらせることが出来ないものも、自主的に空き時間や自宅に持ち帰って作業する等、熱心に取り組んでいた。また、製作過程で2年生が1年生に依頼し、協働的に製作する動きが見受けられ、ゼミナール内での交流が十分に図れたと推察する。

「作業を進めるにあたり、事前の準備や計画が特に重要であることを学んだ。使う材料や量、製作方法をあらかじめ考えることで、効率よく、時間のみならず材料も無駄にせず、作業に取り掛かることができると感じた。」「物語の世界観を作り上げる上で、衣装や装飾は重要な部分であり、見栄えを考えて作ることや基となるキャラクターや場面に忠実に作る大切だと実感した。」「子ども達の喜ぶ姿や興味を惹きつけるためには、物語の世界観を第一に、衣装製作は臨機応変さや計画性、壁面装飾では空間デザインを行う上で、安全面や華やかさをしっかりと考え工夫することで、より良いものに仕上げることができると実感した。」と学生は述べており、これらは学生の自主性を重んじた指導の結果が活きたと感じている。しかし、ミシンを使用せずに手縫いで行ったことで、時間を要したこと、縫いが甘く結果的にミシンで手直したことも等も

あったため、今回の反省点を次年度の指導にも活かしていきたいと思う。

### （3）身体表現ゼミの活動内容

身体表現ゼミを希望した2年生は10名、1年生は4名の計14名であった。2年生の配役はアリス、時計うさぎ、ハートの女王、ぼうしや、3月うさぎ、ねむりねずみ、トランプ兵（3名）、チェンヤ猫（音楽と兼任）である。1年生の配役は不思議の国の花（2名）、いもむし、王様（造形と兼任）である。ゼミ活動の前半はダンスや身体表現に関する基礎的な練習に取り組み、音楽表現ゼミの演奏が仕上がる頃から作品の振付や演技練習を始めることにした。

ダンスや身体表現の基礎的な練習として、「ツバメ」（YOASOBI. 2021）<sup>注1</sup>の振り写しに取り組んだ。

前期の中盤（第7～11回）は、身体表現の創作方法について学修した。オノマトペを題材とした創作法（芳野・越智. 2022）<sup>8</sup>や幼児を対象とした動きの伝え方、手本の示し方についてロールプレイ形式で学修した。

第12・13回は場面ごとに振付や演技方の練習を行った。これまでの学修を踏まえ、学生には自分が登場する場面の振付を創作するよう促し、必要に応じて助言した。練習の様子を動画で収録し、履修者専用のTEAMS（Microsoft社製）において共有した。

後期は通し稽古を繰り返し、その様子を動画で収録したものをTEAMSで共有しながら改善点を検討した。五峯祭準備期間中では、場面ごとの部分練習をスケジュールし、立ち位置、台詞のタイミングや間、動き方などについて仕上げていく練習に取り組んだ。

## 2-3. 各発表の実践報告

### （1）A保育園での上演

本学系列の保育園（2園）の年中児約30名を対象に「不思議の国のアリス」を上演した（2024.10.28）。学生にとって本上演が初めての本番の舞台である。

音楽表現チームのチューニングの場面から始まり、オープニング曲を演奏する。その曲の中で身体表現チームの演者が登場する。1年生は未だ実習の経験がなく、保育園の雰囲気や子どもたちの視線に緊張した様子であった。一方で、子どもたちは集中して観劇していた。「ぼうしや」「ねむりねずみ」「3月うさぎ」が登場する場面では、子どもたちに「なぞなぞをしよう！」と促す演出を加えた。この場面では、子どもの発言に対して、子どもが安心できるような対応が求められる。学生は子どもたちの発言や反応を適切に受け止めながら、なぞなぞゲームを進行していた。

全体的な印象として、学生は大変意欲的に参加し、これまで練習してきた成果を十分に発揮していた。また同時に、さらに子どもたちの興味を惹くような演出が必要であると感じた。台本に沿う進行のみでは物語が淡泊に終わってしまう印象がある。2回目となる五峯祭の本番に向けて演出を工夫することにした。

### （2）五峯祭での上演

さいたま市内のA保育園で「不思議の国のアリス」を上演した後、以下の点について演出の変更を試みた（表5）。

表5.A保育園と五峯祭の演出の変更点

シーン①「ふしぎの国の花」の登場

【変更前】台本に基づく演技

【変更後】出演時間が短いため、「いもむし」と「チェシャ猫」のシーンでも退場せず、劇中のセリフにある「スマイリーフラワー」を観客にプレゼントする。



シーン②「チェシャ猫」と「いもむし」の登場

【変更前】台本に基づく演出

【変更後】出演時間が短いため、漫才のような台詞の掛け合いを増やした。

シーン③「トランプ兵」の登場

【変更前】台本に基づく演出

【変更後】デジタル背景(パワーポイント)を使用し、観客(子ども)に「白いバラを赤いペンキで塗ってしまおう」と促す。子どもに刷毛を持たせ、スクリーンに投影する白いバラに触れるとアニメーションで赤いバラに変わる。



シーン④「アリスを全員で追いかける」場面

【変更前】

黒幕で退場口(写真左側)を隠し、アリス以外の演者が退場する姿を見せないようにした。



【変更後】

黒幕が客席後方から現れ、子ども達が観ている机敷席を黒幕で覆う。その間にアリス以外の演者が退場する。



### 3. 各発表後のアンケート結果

#### 3-1. A 保育園におけるゼミ生対象の初演後アンケート

A 保育園でのパフォーマンス後、製作および上演に参加した学生(30名)を対象にアンケート調査を実施した。質問項目は、①「参加してみた印象はどうでしたか?」、②「参加した際、どんなところに注目しましたか?」(複数回答可)、③「今回参加して感じたこと、要望等を自由に記入してください」(自由記述)である。質問項目①および②の結果を図9に示した。

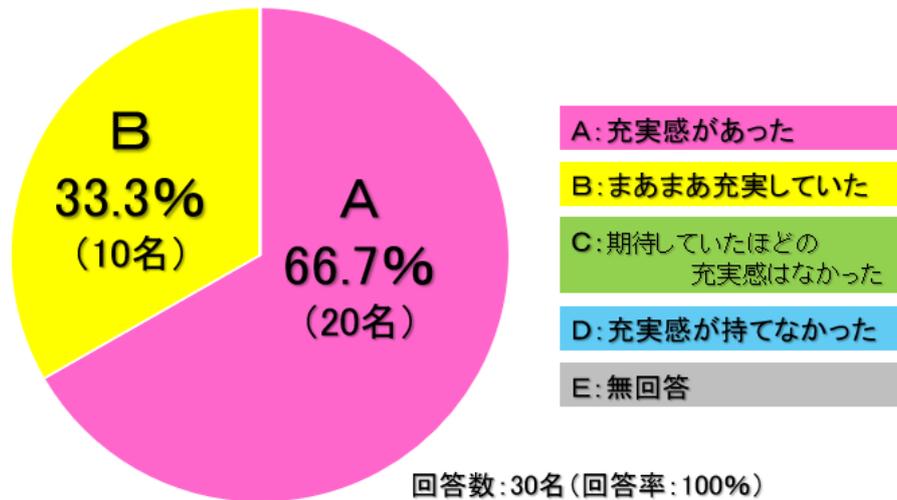


図 9-1.初演後アンケート「参加してみた印象はどうでしたか？」

質問項目①「参加してみた印象はどうでしたか？」では、「充実感があった」と回答した学生が66.7% (20/30名)、「まあまあ充実していた」が33.3% (10/30名)であった。「期待していたほどの充実感はなかった」、「充実感が持てなかった」、「無回答」と回答した学生はいなかった。このことから、ほとんどの学生が保育園で上演できたことに「やりがい」を感じていることが分かる。

また、②「参加した際、どんなところに注目しましたか？」(複数回答可)という質問に対して、「子どもの様子(表情、行動等)」と回答した学生が最も多く93.3%(28/30名)、次いで「園庭、園室内の環境(遊具、掲示物等)」が33.3%(10/30名)、「一般に参加した学生の様子(表情、子どもへの働きかけ等)」が33.3%(10/30名)であった。学生にとって、自分たちの演技が子どもに対してどのように伝わるのか気がかりであったと推察する。また、初めての訪問した保育園のホールは、これまで練習してきた舞台空間とは異なる環境である。この環境の変化に対応しながら演技しなければならない不安もあったと思われる。

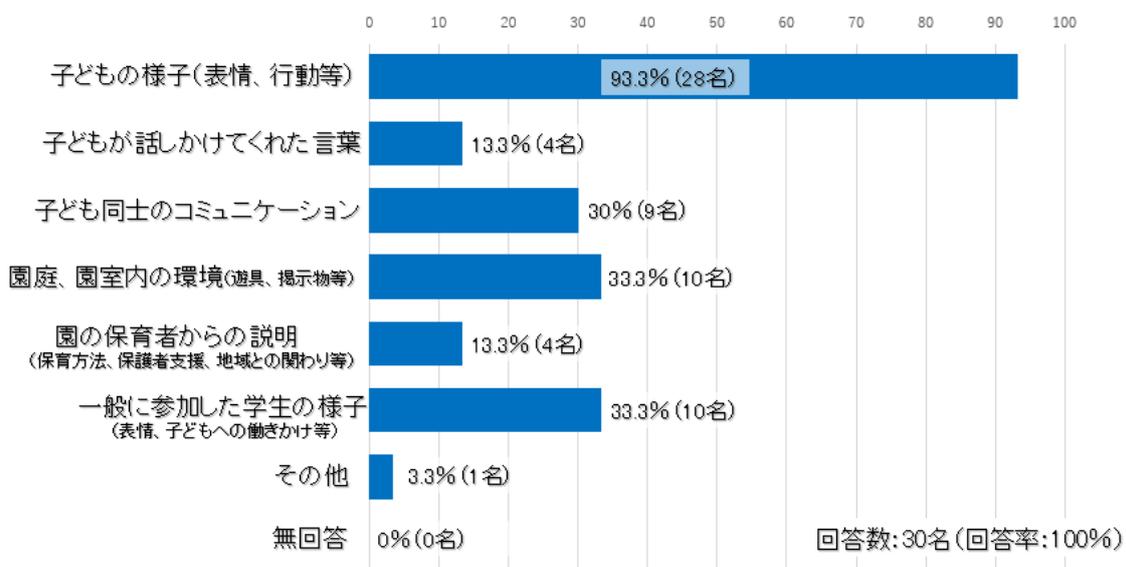


図 9-2.初演後アンケート「参加した際、どんなところに注目しましたか？」

次に、③「今回参加して感じたこと、要望等を自由に入力してください」（自由記述）の記述内容をみると、子ども達がオペレッタを楽しんで観ている姿に学生は感化されたようだ。「楽しく子どもたちの前で劇をすることができました」、「子ども達が楽しそうに参加してくれたのでよかった」のように、学生はパフォーマーとして、子どもは観覧者として双方が楽しめたという記述が多くみられた。また、「子どもたちの反応が思ったより良く、明るく接してくれました」、「子どもたちが真剣にオペレッタを見てくれた」など、子どもの反応に関する記述も複数みられた。上演前の緊張や不安は、子ども達のリアクションによって解消され、学生自身もパフォーマンスを楽しむことができたと推察する（表 6）。

表 6.初演後アンケート「今回参加して感じたこと、要望等を自由に入力してください」（自由記述）」

- ・**楽しく**子どもたちの前で劇をすることができました。
- ・子どもたちを前にするとみんな**笑顔**で演じられていました。
- ・子どもが着て劇をやった方がいいと思う衣装だったのでもう少し凝りたい。
- ・帽子屋のなぞなぞは子どもたちが答えられるものだと確認できた。
- ・子どもたちが**笑顔**で劇を見ていたので、つられて私も**笑顔**になりました。作る側だったけどとても達成感がありました！
- ・音楽を通して子どもたちに触れることができ、貴重な経験になった。
- ・すごく緊張して練習通りにできるかなど不安に思いましたが、実際劇をやってみると子どもたちも**楽しそう**に見ている姿が見れたので良かったと思いました。
- ・音楽表現と身体表現をかけ持ちで担当したが、すごく**楽しく**演奏ができたて良かった。
- ・静かに聞いてくれていたり、最後に**楽しんで**寄ってきてくれて嬉しかった。
- ・子どもの反応が良かった。子どもが集中して鑑賞をしていて、達成感があつた。
- ・アリスのお話が子どもたちは理解できたのか疑問に思いました。
- ・子どもたちの反応が思ったより良く、明るく接してくれました。
- ・幼児保育として、まだ他園の子どもたちが来ない時の保育者の場の繋げ方等も見ることができ、音楽表現ゼミとしても幼児保育学科としても沢山のことを学ぶことが出来ました。
- ・今回の良い点や反省点を生かし、五峯祭でより良い発表ができるように努めていきたいと思います。
- ・予定通りの時間に発表を行うことが出来なかったが、ほかの園の園児が来てくれるのを待っている間、先生が 10 分ほど子ども達に 2 冊読み聞かせをしていて、楽しく過ごしていた所もあって、臨機応変に対応する姿も見ることができました。
- ・子どもたちが真剣にオペレッタを見てくれた
- ・デジタル背景は今回でも出来たのではないのでしょうか
- ・なぞなぞ等、視聴者側も参加出来る時間をつくるのは盛り上がりすぎてとても良いと思いました。
- ・子ども達の貴重な時間をいただいたので、子ども達は**楽しかった**のか気になっていましたら、子ども達が、ハイタッチを求めてきてくれました。
- ・**楽しかった**かどうか本音は分かりませんが、保育園の先生方から、子ども達の本音を伺って、今後の参考にしたいと思いました。
- ・子ども達が**楽しそう**に参加してくれたのでよかった。
- ・ゼミとして初めての発表でとても緊張したけれど、子どもたちが興味を持って見てくれてやりがいがありました。

- ・失敗してしまったところもあるけれど私も楽しんで発表することが出来ました。
- ・A保育園にアリスの演劇を披露させてもらい、まだまだ改善が必要だと改めて感じました。
- ・今後は文化祭と卒論発表会の2回、演劇をする機会があるため、完成度を高めるために努力しようと思います。
- ・楽しかったです。
- ・練習不足の面もありましたが集中して見てくれた子どもたちを見れてすごく嬉しかったです。
- ・実際に子どもたちの反応があると、楽しかったです。
- ・初めての場所で演じてみて、思ったよりもやり切ることができた。
- ・子どもたちに劇を通して楽しんでもらえて良かったです。
- ・子どもたちがすごく喜んでくれて嬉しかったです。
- ・年齢の低い子どもたちでも場面を考えた行動や言動ができていて驚きました。
- ・子どもたちの集中している表情を見られて安心しました。
- ・ピアノ演奏中は子ども達に背を向けた状態だったので、どのような表情をしていたのかは分からないが声だけでも楽しんでいる様子が伝わってきて良かった。

※下線赤字は「楽しさ」に関する記述

### 3-2. 五峯祭における観覧者対象の上演後アンケート

五峯祭での上演後に観覧者を対象としたアンケートを実施した。実施方法は、図 10 で示すようにカーテンコールが終わると直ちに5名のゼミ生が二次元コードの用紙を持ちながらアンケート調査に協力してもらおうよう呼びかけた。このような方法でアンケート調査を行い、19名の観覧者から回答を得た。

アンケートに回答した観覧者の内訳は本学学生5名（幼児保育学科2年生2名、健康栄養学科2年生3名）、本学卒業生6名、一般来場者7名、その他（本学関係者など）1名の合計19名である。

「不思議の国のアリス」の内容はいかがでしたか？という設問に対して、「大変良い」が73.7%（14名）、「良い」が21.1%（4名）、「どちらともいえない」が5.3%（1名）、「悪い」「大変悪い」と回答した観覧者はいなかった（図 11）。全ての観覧者の意見を反映するような回答率ではないが、概ね満足できるパフォーマンス内容であったと推察する。



図 10. 五峯祭上演後のアンケート調査の方法

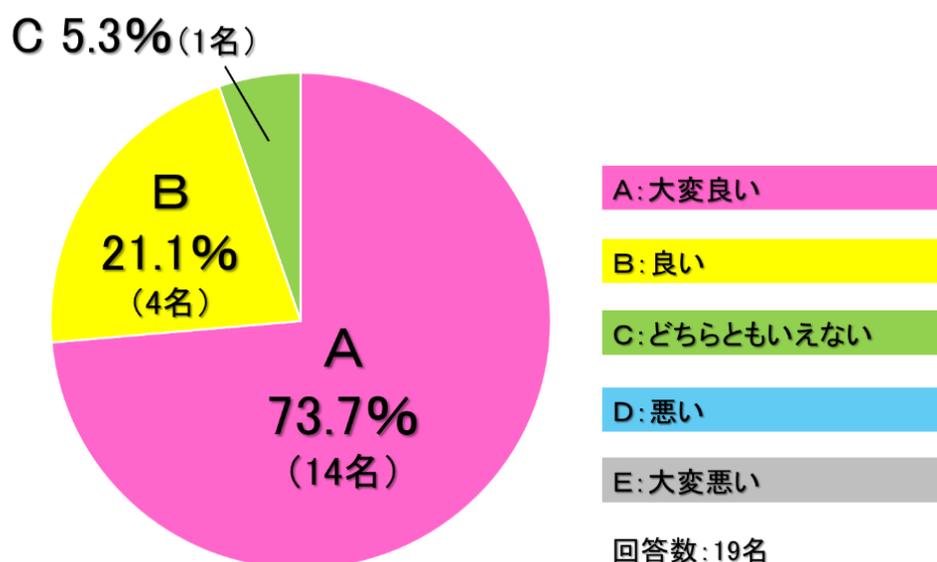


図 11.観覧者対象アンケート『不思議の国のアリス』の内容はいかがでしたか？

さらに、「感想など、ご意見をお聞かせください」という自由記述の設問に対して、「子どもとの交流があるパートは盛り上がっていてよかったと思います」、「子ども参加型になっていたのはとてもよかったと思います」、「プレゼントやクイズは子どもたちも喜ぶので、もっと多く取り入れてもよかったかなと思いました」、「黒い布の演出やバラを塗る工夫も良かったと思います」などの感想があった。このことから、A保育園で上演した後に変更した演出は観覧者に受け入れられ、好評であったと推察する。

#### 4. まとめ（今後の展望）

本学幼児保育学科の令和6年度の卒業研究ゼミでは、新たな試みとして、「音楽表現ゼミ」、「造形デザインゼミ」、「身体表現ゼミ」の3ゼミが協働してオペレッタ「不思議の国のアリス」の上演を目標として活動した。学生は、さいたま市内のA保育園、五峯祭、卒業研究発表会の3回の本番舞台を経験することができた。五峯祭（11月）の本番を終えた後、2年生は練習過程や本番を振り返り、実践報告として個人論文を執筆している。1年生も同じく、活動レポートとしてゼミ活動を振り返っている。1年生は次年度も継続して、「不思議の国のアリス」の上演を目標に活動する予定であり、1年次とは異なる役を担当することで代役やダブルキャストの体制をつくることができる。

ところで、阿部（2023）<sup>9)</sup>は学生がゼミの活動として取り組んだオペレッタ公演に関する意識の変容について、以下の通り報告している。

学生たちにとって「大変だったからこそ頑張って、みんなで一つのものを作り上げた」という達成感は、「子どもたちが楽しんでくれた」という手ごたえを感じることで倍増し、最終的に「楽しかった」という本人たちの満足度に結びつくことが分かった。

本学学生も同様に、子どもたちが楽しめる表現を本番が始まる直前まで考えていた。そして、実際に子どもたちの前で上演した時、子どもたちの笑顔や拍手などの反応が、学生の緊張感を払拭させ、達成感が得られたものと推察する。一方で、学生がどのような目標に向かって取り組ん

だのか、上演後にどの程度目標が達成されたのかなど、学生の学修成果について分析していない。したがって、今後は学修成果に焦点をあて、授業改善の方策を検討したい。そして、さらに学生が主体的に活動しながら創意工夫を凝らし、学生にとって満足度が高いゼミを目指したい。

注1：ツバメ：SDGsを楽しく学ぶNHK Eテレの番組シリーズ『ひろがれ！いろとりどり』のテーマソング。  
作詞・作曲は音楽ユニットYOASOBIのメンバーのAyase、歌は同メンバーのikuraである。<sup>10)</sup>

#### 謝辞

本論の執筆にあたり、保育現場でのオペレッタ上演にご理解とご協力を賜りました、社会福祉法人誠心会理事長の大野智子先生、あおぞら保育園園長の小澤美鈴先生ならびに諸先生方に心より感謝申し上げます。

著者の利益相反：開示すべき利益相反はない

#### 引用および参考文献

- 1) ヤマハ 「CSGIII・クラリネット - 概要」  
[https://jp.yamaha.com/products/musical\\_instruments/winds/clarinets/ycl-csgiii/index.html](https://jp.yamaha.com/products/musical_instruments/winds/clarinets/ycl-csgiii/index.html)  
(2025/01/14 参照)
- 2) ヤマハ 「B♭ トランペット - トランペット」  
[https://jp.yamaha.com/products/musical\\_instruments/winds/trumpets/bb\\_trumpets/index.html](https://jp.yamaha.com/products/musical_instruments/winds/trumpets/bb_trumpets/index.html)  
(2025/01/14 参照)
- 3) ヤマハ 「ビブラフォン」  
[https://jp.yamaha.com/products/musical\\_instruments/percussion/vibraphones/yv-3000aj/index.html](https://jp.yamaha.com/products/musical_instruments/percussion/vibraphones/yv-3000aj/index.html)  
(2025/01/09 参照)
- 4) ヤマハ 「シロフォン」  
[https://jp.yamaha.com/products/musical\\_instruments/percussion/xylophones/index.html](https://jp.yamaha.com/products/musical_instruments/percussion/xylophones/index.html)  
(2025/01/09 参照)
- 5) ヤマハ 「グロッケンシュピール」  
[https://jp.yamaha.com/products/musical\\_instruments/percussion/glockenspiel/index.html](https://jp.yamaha.com/products/musical_instruments/percussion/glockenspiel/index.html)  
(2025/01/09 参照)
- 6) キクタニミュージック 「SW-02」  
<https://www.kikutani.co.jp/itemlist/6678/> (2025/01/11 参照)
- 7) 民族楽器コイズミ 「ウッドスリットドラム D Major scale 10 noteWOODPACK DRUM 製」  
<https://www.koizumigakki.com/?pid=147891213> (2025/01/11 参照)
- 8) 芳野道子、越智光輝編著：保育内容「音楽表現」声から音楽へ 響きあう心と身体。福村出版株式会社。  
173-176. 2022年
- 9) 阿部真子：ゼミ活動としてのオペレッタ公演の実践～表現活動を通して得られる学生自身の学びに焦点を当てて～. 関西福祉大学研究紀要. 第26号. 97-105. 2023年
- 10) Cocotame 人にフォーカスするエンタメマガジン：<https://cocotame.jp/series/038590/>  
(閲覧日：2024年12月4日)